



04 Jun. 24

オオタカ住む山里の自然 いつまでも！

# 瓦版にゆうす

旧日本IBMグランド跡地対策協議会



NO. 25

## 「住民の総意」状況動かす 建築主14階断念 闘いは新たなステージへ

力の攻防から代表交渉へ  
「住民の意志」がすべてを制す  
「一切の代替案も拒否」

21日9時、市民およそ200人が身構える中、長谷工は強行にトラック2台を正門前道路に進入させました。縦に連なる2台を、入社間もない若手長谷工社員がぐるりと囲み、車列がじわじわと前進。最前線で抗議する市民や市議がなぎ倒されてゆく光景が1時間続きました。結果、車両は敷地内に入りましたが、余りに危険な状態を前に、町田市が「話し合い」を双方に打診。10時45分より市庁舎で住民代表として桑沢、今井、松尾3町内会対策協議会副代表以下7名と長谷工2名出席のもと、危険回避への話し合いが行われました。

町田市安藤企画部長が「今日、この後もやれば事実上着工となる。避けたい。」、長谷工藤瀬参与が「今はオオタカを守るとは言い切れない。（環境省の）ガイドラインに沿ってやれば事業は吹っ飛ぶ。」と続く中、副代表が「10階案など呑めない。話し合いが先。我々はその住民の総意を告げるのみだ。」と返しました。2時間の神経戦の末、「14階での着工は無し」「新たなプランでの説明会を開く」旨の確認がされ、1時半に正門前に戻った交渉団から雨の中現場を死守した市民に報告されました。今後、協議会は事業者が示してくる「説明会の内容」を受けながら、「納得のゆく説明」「建築主出席のもとに開かれる説明会」の開催を今までどおり、強く求めてゆきます。

日曜緊急集会  
「10階598戸 呑めない」  
満場一致が原動力に

14日から始まった工事車両の強行突入には連日100人を超える規模で市民が集まりました。日を増す毎に危険度が高まる中、18日金曜、町田市は協議会に「10階598戸で長谷工に行政指導したい」旨の「調停案」を示しました。これを受けて、「協議会としては10階598戸も14階592戸も被害は同じ。呑めない」ことを3町内会の総意で確認し、20日に緊急住民集会を招集。181名の参加者に「賛成、反対、全ての意見を出し尽くしてほしい」と訴えました。約2時間半。「去年の夏、出直してちゃんと説明すると長谷工明言した。」「未だに建築主出てこない。」「学童、風害、交通と問題は何一つ解決していない」「町田市はどっちを向いて仕事しているかわからない」「寺田市長はこの土地は買わないけど、他の東急所有の広大な土地を買らしい。どうなっているのか？」といった様々な意見が出されました。「この案を蹴れば行政との対立を生む可能性もある。しっかり議論をしよう。」と司会の再確認の後も、住民の不退転の決意は変わらず、集会は「ミキサー車入って抗うたれても、悪は悪。阻止は阻止！」で終結しました。

次は説明会 建築主東武鉄道よ！  
「町を壊さない提案を待つ！」

協議会では「何が工事を止めたのか？」状況分析を進めました。しかし、長谷工、建築主が何を考え、市がどう動いたか、他の力が働いたのかどうか、知るよしもありません。「21日朝からのドリル工事は見せ掛けだった。ミキサー車も予定になかったのでは？」という意見も寄せられましたが、真偽はわかりません。しかし、交渉団7名が「14階やめるから10階呑め」と迫る長谷工に強い態度で「NO！」を貫けたのは「200人による一つの総意」を持っていたからにほかなりません。勇気を与えて頂いた皆様に心から御礼申し上げます。

私たち住民は、どんな代替案も了承していません。つまり、闘いはこれから。苦しくても、長くなっても決して町壊し、環境破壊は許さない強い姿勢で臨みましょう。次は「新たな計画の説明会」が舞台となります。